

【レッスン前に準備しておくもの】

- ・モールド(φ80または、綿棒ケース(φが大きいもの))
- ・ワックス(目安)・・・400g(事前に適量の添加剤も測り鍋に準備しておく)
- ・押し花
- ・芯・割りばし・温度計・土台(綿棒ケースで作るなど専用の型でない場合必要) 保冷剤などの備品

3-1 ボタニカルキャンドル①

ボタニカルとは「植物の」という意味をもち、ボタニカルキャンドルとは植物をモチーフに取り入れたキャンドル。自然のものを取り入れることでナチュラルなイメージのキャンドルを作ることができます。好きな花や植物を身近なインテリアとして飾っておけるいくつかの技法を勉強していきます。

◇BOTANICAL CANDLE

- ・パラフィンワックス400g
- ・パイパーワックス2g
- ・4×3+2 芯
- ・耐熱型(ポリカ製推奨)

※1 芯の選び方

ボタニカルキャンドルに使用する植物は火によって燃えるリスクがあります。直径に対していつも使用する芯よりワンスサイズ下げたものを使用するようにしましょう。そうすることで、周りに壁を作りながら炎が下がっていくので植物が燃えてしまう心配がありません。

※2 型の選び方

上にも述べたように火を安全に灯すために型選びも重要で、直径が小さな型で制作すると周りまで溶けるリスクが高まります。なるべく直径の大きな型を選ぶと火を灯しても外側まで溶けないので安心です。またお花等を配置する際に、目で見て位置を確認しながら配置することができる透明の型を使用することをお勧めします。

※3 植物配置の際の注意点

ボタニカルキャンドルに使用する植物はドライのものがほとんどです。とても燃えやすいので芯の近くには配置しないようにします。例えば作る過程で配置しやすい底部分ですが、出来上がりの際は上下逆転し蓋が上となるため、芯に火をつける時にとても危険です。(装飾は側面のみ行います)

①火災に関する注意を必ず説明する！
最近野外や風のある場所でのボタニカルキャンドルの火災が増えているようです。芯の近くには配置しない、なるべく直径の大きな型を使うなど。直径の小さなキャンドルは高さのあるものに限定し、花は底部分にしか使用しないように。



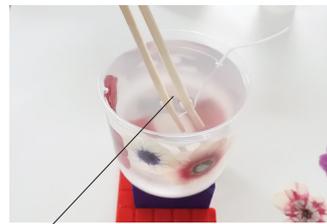
01.ワックスを溶かし芯の下準備をする



02.型に芯を通しドライフラワーを準備する



03.ワックス温度75℃になったら型に注ぐ



04.型の表面が曇り始めたら花を外側に向けて押さえつけながら素早く貼り付けていく

◆空気が入らないよう中心から外側に押さえることがポイント。

②キャンドル専用の型を使わない場合、型が倒れないよう講師が気を付けてください。植物を入れるのに気を取られ蠟がこぼれると大変危険です。

③配置のイメージを机上で行う際に注意すること。

- ・上下逆転する事を前提にイメージ

- ・厚みがあるものの上に薄いものを重ねて配置していた場合は要注意。

(花芯部分に厚みがあるお花など、上に薄い花を重ねると空気が入ってしまい蠟も入り込み綺麗な仕上がりにならないので、重ねる順番は薄いものの上に厚みがあるもののほうがよい。薄いもの同士はOK) 薄いものを先に入れるか、それぞれが重ならないように配置する。